

## 令和8年度（2026年度）市町村職員国内先進事例研修 研修先の概要

### 研修① 岐阜県岐阜市

#### (1) 町の概要

人 口：396,258人

世帯数：190,467世帯 ※令和8年4月1日現在

#### (2) 研修テーマ 持続可能な公共交通ネットワークの構築と自動運転技術導入の取組

岐阜市では、令和6年3月に、公共交通や中心市街地の活性化に向けた交通体系などの様々な分野の施策を総合的かつ一体的に推進するなど、公共交通とまちづくりがより連携した「岐阜市総合交通計画」を策定。郊外部と市中心部を結ぶ路線バスの幹線軸の強化と地域主体の手作りコミュニティバスを軸として、利便性と持続性の高い公共交通ネットワークの構築や、官民連携による「バスまちば」の開設などの人とまちをつなぐ道路空間・交通環境の充実などに取り組んでいる。

また、運転手不足や安全対策などの課題に対する一つの解決策として、公共交通への自動運転技術導入に向けて段階的に取組を進めており、令和5年11月からは、中心市街地で全国初となる自動運転バス「G I F U H E A R T B U S」の5年間の継続運行を開始した。岐阜駅から市役所までの「中心部ルート」と、岐阜駅から観光地などを周遊する「岐阜公園ルート」を運行し、令和9年度までにレベル4自動運転の実現を目指す。令和8年1月からは「中心部ルート」において、これまで課題となっていた障害物回避などを自動で行える新車両の運行を開始した。

本研修では、本取組についての座学と自動運転バスの見学を行う。

### 研修② 岐阜県郡上市：チームまちや<sup>ぐじょうし</sup>

#### (1) 町の概要

人 口：36,515人

世帯数：15,355世帯 ※令和8年4月1日現在

#### (2) 研修テーマ 空き家の再生を通じたまちづくり ～チームまちやの取組

「チームまちや」は、空き家の再生を通じてまちの課題を解決していくため、平成27年6月に一般財団法人郡上八幡産業振興公社に結成された、空き家再生に特化したプロジェクトチーム。

チームまちやが行う「空き家対策プロジェクト」では、郡上八幡中心市街地部を対象として、空き家の借受、建物の改修、入居希望者への賃貸など、空き家再生に必要なすべての仕事に取り組んでおり、市外在住で町家の管理ができない、改修費用が出せないなどといった空き家の管理・活用に関わる悩みの解決や、郡上八幡市街地で新たな暮らしを始めたい、自分でお店を始めたいなどといった思いを持った人に改修した町家の貸し出しを行う。

その他にも、移住希望者や町家に興味のある人を対象に年3回開催している「空き家拝見ツアー」や、その家の暮らしを支えていた道具や生活を彩っていた嗜好品などの空き家に残った物品の展示・販売などを行う「骨董市やすやす」なども行っている。

本研修では、現在の空き家対策に至るまでの数十年間のまちづくり総論に関する座学や、空き家改修事例を含めたまちづくりの成果を代表する現場の見学を行う。

### 研修③ 岐阜県飛騨市：ヒダスケ！

#### (1) 町の概要

人 口：21,065人

世帯数：8,801世帯

※令和8年4月1日現在

#### (2) 研修テーマ 地域を越えて支え合う「お互いさま」のまちづくり ～ヒダスケ！の取組

飛騨市では、人口減少先進地でも豊かなまちづくりを目指し、地域外の人との交流を目的とした「飛騨市ファンクラブ」を平成29年に設立。この取組は、市と地域外の人との関わりを新しく生み出すことに成功し、約7,000名のファンとのつながりを創出した。さらに、ファンクラブ会員との交流の中で、飛騨市や地域のために「お手伝い」をしたい方と、暮らしの一部のお手伝いを通して「体験」してもらいたい市民それぞれのニーズに気づき、そのニーズをつなぐ仕組みを考え、「ヒダスケ！ー飛騨市の関係案内所」をオープン。

ヒダスケ！は、「体験ツアー」や「ボランティア」をリブランディングし、困りごとや地域課題を資源に、人と人とのつながりと支え合いを構築する新しい仕組みで、地域経済循環型サービスからのアプローチではなく、地域内外の人の交流から生み出す支え合いにフォーカスし、人口減少下における課題解決に取り組んでいる。プログラム主催者・参加者の両者にとっても、対等で心地良い関係性とメリットを体感できるサービスを提供し、マッチングもウェブ上で可能にすることで、地域や年齢の垣根を越えて、幅広く参加者を募集することができるものとなっている。

参加者には、主催者の創意工夫で用意する野菜等のお礼や電子地域通貨「さるぼぼコイン」を使った「オカエシ」を用意するなどして、地域経済の縮小や高齢化で困難になった景観保全活動、農業の担い手不足の解消の一助にもなっているほか、ヒダスケ！をきっかけに、プログラムを超えた副次的な交流も生まれている。

本研修では、本取組や特徴的な活動事例などについての座学を行う。